

編集委員がインタビュー!

みんなの
ひろば



このコーナーでは、町内で活動している皆さんのところに編集委員がおじゃまして、活動内容を伺っています。

根石運動公園管理組合

自分たちの町は、自分たちの手で!

今回は、根石運動公園(板井)を管理している地元の皆さん取材しました。

(取材: 村田安男)

管理運営の趣旨

自治区コミュニティの宝として、区民が造成整備から運営まで行っています。
参加することが、楽しみとなっています。



どのような方の集まりですか?

公園内の整備や清掃は、少年野球チームやグラウンドゴルフ部など12団体を中心に、板井区民全体参加で行っています。年間約2000人が活動しています。

どのような作業を行っているのですか?

公園の四季折々を楽しむべく、清掃作業、チューリップやコスモスの植栽作業などを、毎月第3日曜日に行っています。また、5月にこいのぼりを揚げていますが、年々ふえて300匹ほどになってきました。



成果とこれからの目標は?

活動を通じ、仲間づくりが進んでいます。また、健康管理についても好評を博しています。利用者の意見、アイデアを取り入れ、整備拡充を図り、多くの人たちが参加できるようにしていきます。

議会へ一言

将来の玉村町を見据えて、住民の幸せにつながる行動をしてください。

(根石運動公園管理組合長 大久保孝高さん)

編集後記

ティーブレイク



3月議会も終わり、新年度予算が決定しました。町民の思いに寄り添った政策と想っています。変化の激しい現在、政治や行政に魔法の杖はありません。議会としては、町民の声や思いが通じる身近な行政に向け、一層努力する必要性を痛感します。

東日本大震災と福島原発事故から2年が過ぎました。今年の寒さを思うとき、日常を奪われた被災地で生活する人たちの苦難を考えずにはいられません。

2度目の春を迎えても復興はまだ進まず、事故原発に関しては、現場で働く熟練作業員の確保が難しくなるなど、40年で廃炉まで可能なのかさえ不明です。

一方、今のところ株式市場は活況ですが、円安の影響で輸入品が高騰し、生活を直撃する事態になっています。政府のデフレ脱却策としての2%インフレ目標も、国民の所得が上がらないことには目も当てられません。目先の株相場に浮かれ、震災の深刻さを風化させてはなりません。

このような中、町では職員を宮城県亘理町へ1名派遣(1年間)します。震災以来6人目の被災地派遣です。この想いを共有したいものです。

議会広報特別委員会

石川 眞男

委員長 村田 安男
副委員長 石内 國雄
委員 笠原 則孝
委員 柳 浩一
委員 川端 宏和
委員 石川 眞男

議長 浅見 武志



次号は7月15日頃
お届けする予定です